

作文コンクール 優秀賞

(北方領土返還要求運動奈良県民会議会長賞)

今私ができること

斑鳩町立斑鳩南中学校 厩野 友萌

私は今まで「北方領土」に関する知識は学校の授業で教わったものしかなかったです。特に自分で調べたりもしませんでした。けれど、今回「北方領土」についての作文を書くから少し調べてみようかなと思い、インターネットや本を開いてみました。

インターネットには、外務省の北方領土について書かれているページや、北方領土の問題点がぎっしり書かれている内閣府のウェブサイトなどがあり、見ると日本の北方領土に対する思い、それと同時にたくさんの人にきちんと北方領土のことを知ってもらいたいという気持ちが見えてきました。

北方領土はロシアよりも先に日本が見つくて、約17000人が住んでいたそうです。そこに1946年、ソ連が一方的に自国領に編入し、1948年までに北方領土に住んでいた日本人の全員が強制退去させられたそうです。この約70年ほど前の出来事を知り、私は衝撃を受けました。急に「島を出て行け。」と言われた日本人の人たちの気持ちを考えるとすごく複雑な気持ちになりました。何の罪もない人々にこんなにつらい思いをさせるなんて。たくさんの北方領土問題のせいでつらい思いをした人々のためにも早く北方領土が2つの国が納得し合える形で日本に帰って来る日が来てほしいです。

私は今回いろいろ調べて、一つ思ったことがありました。それは、日本とロシアの考え方、ものごとのとらえ方の違いがあって、すれちがってしまい、今の状態になってしまったのかなということです。いつまでもズルズル北方領土問題を解決しないままなのは、私も嫌だし、この問題のせいでつらい思いをされた方はもっと嫌だと思います。やっぱり、この問題を解決するには、自分の国の主張だけを相手に押しつけるだけでは絶対にいい方向にはいかないので、相手の主張にも耳をかたむける必要があると思います。このことは北方領土問題だけではなく学校生活などにも言えることです。当然、2つの国の主張を全て取り入れて良い方法を考えるのは少しムリがあるし、難しいです。けれど、2つの国で話し合いを続け条約の内容を確認したり、お互いの意見、主張を大切にしながら、少しずつ少しずつ解決策を導くことで、問題解決につながっていくのではないかと思います。

北方領土問題はこれだけでは解決までの道のりは長いです。国を代表する方々だけではとても大変なことだから、国民の理解が必要となってくるのじゃないかなと思いました。私たちが協力しないと何も始まらないと思います。そこで今、私にできることを考えてみることにしました。もちろん普通の中学生在がロシアの代表の方々に会ったりすることは当然できないです。でも、やっぱり少しは問題解決のために役にたちたいと考えたときに、すごく小さなことだけれど、家族や友達に私が北方領土について調べたことを話して、少しでも北方領土に興味を持ってもらうことができるのではないかなと思いました。そしてみんなに理解してもらいたいです。

このように北方領土は、たくさんの歴史や問題を持っています。少しずつでもこの問題がいい方向になるよう北方領土のことももっと知って周りの人たちに伝えていこうと思います。